

十大弟子一覧

舍利弗（シャーリプトラ）： Śāriputra

智慧第一。釈尊の弟子となり半月で悟りを得た。釈尊からの信頼も厚く、時には釈尊に代わって説法をすることもあった。目連と並んで二大弟子と称された。

目連（マウドガリヤーヤナ）： Maudgalyāyana

神通第一。釈尊の弟子となり七日目に悟りを得た。釈尊の説法を邪魔する者たちを神通力により降伏させ、異教徒たちから教団を守った。舍利弗と並んで二大弟子と称された。

摩訶迦葉（マハーカーシャパ）： Mahākāśyapa

頭陀第一。出家してから亡くなるまで、衣食住へのこだわりをなくすための修行（頭陀行）を続けた。釈尊が着ていた衣をもらい受けたという。釈尊が亡くなった後は、摩訶迦葉が中心となって教団を率いた。

須菩提（スブーティ）： Subhūti

解空第一。弟子の中でも、「空」の教えを最もよく理解していた。また、非難を受けても争うことがなかったため、釈尊から「無諍第一」と賞賛された。「被供養第一」とも言われる。

富楼那（プールナ・マイトラヤーニープトラ）： Pūrṇa-Maitrāyaṇīputra

説法第一。弟子の中で最も説法に優れ、各地方へ趣いて人びとに釈尊の教えを伝えた。

迦旃延 (カーティヤーヤナ) : Kātyāyana

論議第一。釈尊の教えをわかりやすく解説したことから、「論議第一」と称された。二大弟子が亡くなった後は、迦旃延が中心となって布教に尽力した。

阿那律 (ア Niluddha) : Aniruddha

天眼第一。釈尊が説法をした時、居眠りをして叱られる。それ以来、眠ることも、横になることもなく修行を続け、視力を失うも、あらゆるものを見通す能力 (天眼) を得た。

優波離 (ウパーリ) : Upāli

持律第一。出家する前は、理髪師であった。戒律を厳しく守った弟子。戒律に関する様々な事件を仲裁し、釈尊に「持律第一」と賞賛された。

羅睺羅 (ラーフラ) : Rāhula

密行第一。釈尊とヤショーダラーとの間に生まれた息子。舎利弗について修行に励み、悟りを開いた。黙々と修行をする姿から、多くの弟子たちから尊敬を集めた。

阿難 (アーナンダ) : Ānanda

多聞第一。釈尊が亡くなるまでの 25 年間、釈尊に仕え、身の回りの世話をしていた。そのため、説法を聞くことが多く「多聞第一」と称された。

参考文献

赤沼智善『印度仏教固有名詞辞典』法蔵館,1967 年

中村元『岩波仏教辞典 第二版』岩波書店,2002 年

宇井伯寿『仏教辞典』大東出版,1938 年

公益財団法人仏教伝道協会『仏教聖典』1983 年

鈴木学術財団『漢訳対照梵和大辞典 新装版』株式会社講談社,1986 年